

伝統文化の源流に触れる

2017年3月12日(日)

■12:30～開場 ■13:00～開演 ■15:30終了予定 ■会場：国立文楽劇場・小ホール

<第1部> 京都府伝統産業記録映画の視聴と演奏 題目：「篠笛」

出演：和佳氏
植木 陽史氏



京都府が製作した府域の伝統産業記録映画のうち、今回は俣野真龍氏、俣野耕作氏による「篠笛」の製作をご覧ください。今も脈々と受け継がれる伝統手法で作られる笛づくりの技を視聴いただき、その後篠笛奏者の和佳氏そして和太鼓奏者の植木陽史氏のお二人による演奏をお楽しみいただきます。笛の製作工程を拝見し、出来上がった笛の音色をお聴きいただきながら、京の伝統工芸技術「手作りの技」を、そして日本の伝統文化の一端を感じていただけたらと思います。



和佳(篠笛)
子供の頃より笛とピアノに親しむ。祭り囃子や長唄、祇園囃子などを学び、和太鼓グループに篠笛奏者として参加した後、和太鼓奏者の世津とユニット「世津+和佳」を結成。京都を中心に神社での演奏やライブ活動などを行う。ギターやバイオリン、ピアノ、沖繩三線、電子楽器などジャンルを超え幅広い楽器と共演。オリジナル楽曲の作曲も行う。邦楽女子ユニット『ニッポン・ガールズ』、『たまゆら社中』などにも笛奏者として参加している。



植木 陽史(縮太鼓)
1977年香川県観音寺市で生まれる。3年間、和太鼓集団「鬼太鼓」の一員として修行。在籍中は、述べ1年間6,000kmに及ぶ中国大陸マラソンツアーを達成。2001年3月、自分自身が目指す舞台を創るために退座。同年4月より、日本民謡京極流の門を叩き、津軽三味線・日本民謡の勉強を始める。翌年の2002年1月に和楽器演奏集団「独楽」を結成。現在は独楽の活動以外にも和楽器だけにこだわらず様々なジャンルのアーティストたちとの共演も数多く行っている。

<第2部> アコーディオン・二胡

出演：デュオ タピオ



アコーディオン・編曲の宇根章浩と二胡の吉川普子によるデュオ。原始的な音色と近代的な音色を持つ二つの楽器の響きを調和させたいという思いのもと結成された。森の中で聞かれる自然の音の共鳴に憧れデュオ名をタピオ(フィンランドの叙事詩カレワラに出てくる森の精)と名付ける。現在、京都を拠点に多様なジャンルの曲を演奏しながら活動を展開している。



宇根 章浩(アコーディオン)
広島県尾道市出身。幼少の頃より音楽に親しみ、高校卒業後、音楽の専門学校で主にポピュラー音楽の理論、作曲法、奏法などを学ぶ。20代前半にフランスへ短期留学中、街角で奏でられるアコーディオンの音色に魅せられアコーディオン奏者になることを決意。帰国後、数多くのミュージシャンと共演しながらアコーディオンの研鑽をつむ。現在、いくつかのバンド、ユニットのメンバーとして演奏活動を行いつつ、作曲や編曲も手掛けている。



吉川 普子(二胡)
京都市生まれ。95年高校在学中より二胡を蘇娟胡女史(北京中央音楽学院卒、中央民族音楽学院出身)に師事。京都府立大学文学部卒業後、二胡の演奏と普及活動を開始。2004年京都市立芸術大学院音楽研究科修士課程修了(民族音楽学専攻、少数民族の弓奏楽器等を研究)。現在は、京都を拠点に二胡の演奏活動と指導、旧奏法(絹弦)の研究を続けている。2015年よりアコーディオンと二胡のデュオタピオでの活動を始める。

現地ご案内



- 会場／国立文楽劇場小ホール(大阪市中央区日本橋1-12-10)
最寄駅：堺筋線・千日前線「日本橋」駅下車 7番出口より徒歩1分
- 参加無料
事前にハガキもしくはメールに住所・氏名・電話番号をご記入の上、下記までお申し込みください。
- 主催・連絡先／一般社団法人老人文化会議
(〒550-0006大阪市西区江之子島1-7-3)
TEL:06-6444-2777 E-mail:info@eldernets.or.jp